

～目次～

1. T K K活動
2. 関連団体の活動
3. 行政等の活動
4. T K K役員より

【1】T K K活動

**

●NPO法人設立記念 高次脳機能障害シンポジウム「いま、ほしい！支援を実現するために」
7月6日(日)、於/日本財団ビル、助成：日本財団、後援：スウェーデン大使館、東京都他
南は山口から北は仙台まで、東京地区以外からも、定員250名を超える多数の皆様にご
参加いただきましたこと、あらためて御礼申し上げます。

なお、本シンポジウムの報告書を発刊の際は、T K K-HPでお知らせいたします。

●損保ジャパン記念財団賞受賞者記念講演会・シンポジウム・交流会に参加

7月13日(日)、於：虎の門パストラルホテル

●共産党国会議員団主催、障害者・患者団体との懇談会に参加

7月15日(火)午後、於：参議院議員会館

●T K K理事会開催 7月21日夜、於：新宿ASKビル

シンポジウム総括、5ヵ年活動計画等について検討

●NPO法人設立資金助成首都圏地区贈呈式に参加、

7月29日(火)午後、於：損保ジャパン本社、

T K Kは昨年贈呈されたので、助成された先輩団体として招待されました。

○厚労省助成20年度障害者福祉事業「発達障害児(者)および高次脳機能障害児(者)の家族を
対象としたコールセンター設立に関する調査研究」検討委員会

8月9日(土)夜、於：(財)パブリックヘルスリサーチセンター(早稲田大学28号館)

委員にT K Kの細見理事長が推薦されました。

○高次脳機能障害者のための「ボランティア(支援者)養成講座—2— ～脳と心のリハビリ～」

T K K主催、キリン福祉財団助成、都身障・都社協後援、調布ドリーム協力

10月5日(日)、10:00～16:30、於：東京都心身障害者福祉センター、

<午前>講義「高次脳機能障害の対応～脳と心のリハビリ～」講師：橋本圭司先生

<午後>実習1「社会復帰リハビリ：羅針版」講師：橋本圭司先生。T K K当事者と家族を交え

実習2「地域リハビリ：調布ドリームの実践から」リハビリの支援者達を講師に当

事者や参加者を交えて地域リハビリについて実習します。

<参加費>無料。

<定員>100名。

<概要や申込用紙について>T K K-HPに掲載予定

<申し込み> FAX: 03-3200-8970(太田宛) <問い合わせ> TEL: 03-3408-3798(細見宛)

【2】関連団体等の活動

□葛飾区の高次脳機能障害者ボランティア養成講座

- 7月5日（土）「高次脳機能障害とは、どのような障害なのか」、講師：中島恵子先生
 - 8月9日（土）「高次脳機能障害者のコミュニケーション」、講師：後藤美加先生
 - 9月6日（土）「高次脳機能障害者のリハビリ」、講師：渡邊修先生
- 葛飾区以外の方も受講できます。詳細は次にご連絡下さい。
- ・申し込み・問い合わせ：葛飾地域活動支援センター（ウエルピア3階）
葛飾区堀切3-34-1 電話：03-5698-1336 F A X：03-5698-1337

●調布ドリーム「ドリームサロン」、7月13日（日）午後、調布市総合福祉センター

=== お客様は4名でしたが、少人数ならではの暖かい、アットホームなサロンになりました。11年前に自転車で事故に遭われた当事者が来られました。事故後、物覚え、記憶が悪くなり、仕事で苦勞しているとのことでした。昨年秋のドリームサロンに参加、そこで橋本先生の講演を聞きそれらの症状が事故の後遺症、高次脳機能障害であると認識されたそうです。ドリームサロンは地域でのささやかな啓発活動ですが、このような方に少しでもお役に立ったことは嬉しい限りです。 === 矢野（記）

●VIVID主催、専門職向けの基礎研修会「高次脳機能障害のある人への在宅支援」

- PART1:「高次脳機能障害者の理解と対応」、7月13日、講師：坂爪教授
- PART2:「高次脳機能障害者支援について」、7月27日、講師：田中眞知子氏

【3】行政等の活動

●区西部高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会

7月3日（木）夜、於：慶応義塾大学病院、TKKの細見、高次脳機能障害者と家族の会の太田、ハイリハ東京の小澤が出席

●身体障害者更生相談所身体障害者福祉司等実務研修会—高次脳機能障害

7月16日～18日、於：国立リハビリテーションセンター
今井副理事長が18日午前、家族会としてのパートを受け持ちました。
=== 私の話は、先日のシンポジウムに使ったパワポを膨らませたようなものを使用。

1. TKKをはじめとする家族会の活動と社会情勢の変化
2. 東京都のニーズ調査と実態調査の内容と考察
3. 相談窓口について
4. 家族会での相談を通して、相談内容の変化など
5. 世田谷の事例を通して見えてきた問題点

などについてお話ししました。 === 今井（記）

●第3回高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会、7月23日（水）夜、於：都身障細見理事長が委員として、今井・田辺副理事長がオブザーバーとして参加しました。

===

<細見>東京都及び都身障主催研修会等に当事者や家族の講師を要望。高次脳機能障害の有無チャートについて質問、要望。及び学童期の脳損傷による高次脳機能障害や発達障害についての検討を要望。
10/5ボランティア（支援者）養成講座開催を告知。

<今井> 世田谷区の高次脳機能障害者ガイドヘルパー養成講座の説明。

<田辺> 高次脳機能障害者の就労支援施策ばかりが目立つので重度高次脳機能障害者施策について中村都精神保健医療課長に要望。

さて、社会教育事業としてのTKKボランティア（支援者）養成講座は理解と賛同を得て順調に始動した。さらに、TKKと東京都協働（或は企業助成も加え）の、高次脳機能障害相談・ピアカウンセリング事業、及び脳損傷による高次脳機能障害リハビリ事業、グループホームなど居場所づくり事業等々を実現したい、先ずは小さくても良いから実行したい。協働事業を行うためにはより多くの協力者が必要と思う。 === 細見（み）記

●北多摩西部高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会、

7月29日（火）夜、於：村山医療センター、

TKKと高次脳機能障害者と家族の会を兼ねて今井、メビウスのWAは根橋の両氏が出席

===

印象に残った事例の話では.....

・脳血管が多いとのことですが、脳外傷での脊髄損傷との合併症、骨折との合併症としての対処がある。

・救急病院では脳外傷も多いが、ベッドを早く空けなければならないので、軽度はリハ病院に、まだ治療が必要な人は療養型に送り出す。しかし運動麻痺がない高次脳機能障害者の行き先がない。

・ADLが良いと、家族が高次脳機能障害を受け入れられなく、取り組みが難しい。

・若年で独居、身寄りがない、家族が看ないという人が多く（なぜかこれでもかというバックグラウンドを持った人が多い）という発言に出席者の頷きが多かった。今後の課題としてある。

・若年の高次脳機能障害者が増えつつある。180日の入院期間中での社会復帰や就労支援ができない。

・社会資源の不備、少なさ、情報・連携の薄さ

・「脳卒中の地域連携パス協議会」が2年前ぐらいからあり、情報交換を続けている。

・大して困難はないが、軽度な遂行機能障害などがいるはず。誰にも言えず悩んでいる。

普及啓発がさらに必要。

・近隣の苦情の中に高次脳機能障害者がいる。医療保健福祉どことも繋がってはず、整理するのに時間がかかる。

などなど書き連ねましたが、現状と課題はたぶんどこでも同じだろうと思われまます。特に単身者の問題はこれから増えてくるだろうと思っています。「結婚しない男性」の問題など、これらは高次脳機能障害者としても出てくるでしょう。 === 今井（記）

●厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業「高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究」&「平成20年度 関東甲信越・東京ブロック合同会議」

7月30日（水）午後、於：大宮ソニックシティ、

東京ブロックの家族会の代表としてTKKの細見理事長が推薦され参加しました。

=== 東京を挟んで10都県（東京、千葉、神奈川、埼玉、茨城、長野、栃木、群馬、山梨、新潟）など50人以上が参加。栃木、群馬、山梨、新潟の4県はまだ支援拠点が無い。現時点で高次脳機能障害支援拠点が設置されているのは47都道府県中35。ちなみに、未だ支援拠点機関が設置されていない県は、北から青森、秋田、山形、福島、新潟、群馬、栃木、山梨、奈良、和歌山、高知、宮崎の12県。平成24年度には全都道府県に設置を達成の予定としている。

先ず、中島八十一国リハ学院長の基調講演「高次脳 地域支援ネットワーク事業の現状と今後に展開について」。次いで、小林都身障課長の基調報告「東京都における高次脳機能障害者実体調査」。支援拠点現状と実体調査実施状況について参加各都県報告。参加各都県の事業の実施況や課題の発表があった。

ようやく当事者・家族会等の活動状況を発表する機会が回ってきたが、前半の話が長引いたため、TKKなど 後半の家族会達の時間が無くなり、発言がわずか2～3分しか許されず、非常に残念でした。（当日、TKKのリーフレットと活動状況等の書面を配布していたことが幸いした。） === 細見（み）記

【4】TKK役員より

∞
**
∞

TKKを振り返り 「啓発」に想うこと

副理事長 矢田 千鶴子

2002年2月に調布ドリームを立ち上げるきっかけは、その頃入っていたある家族会に参加した、区職員から「国や都に要望をしているが、国や都が施策を考えても現場である区市では当事者の顔が見えてこないと思う。それぞれの住んでいる区市の窓口で困った事を訴えていく事を考えた方がいい」と発言された事でした。

元々、いつでも会える仲間がいてリハビリも出来るような事を望んでいたもので、思い切って調布市で始めました。

また誰もがなりうる障害なのに、医療・福祉関係者も知らないという、この現状を打開したいと、同年6月に都内の家族会が話し合う機会を作り、1年後2003年6月にTKKが立ち上がり、2007年9月の旧TKK解散まで代表を務めました。

立ち上げ前から都リハで行なわれた東京都高次脳機能障害者社会復帰支援事業にも協力でき、毎年の東京都への要望書提出時には、年々対応される都側のメンバーの人数と役職も広がり、一丸となることで道が開けていく想いでした。

2005年には4団体の参加があり10団体となり役割も分担できるようになりました。何しろ各会の代表たちはそれぞれに忙しかつたので「数は力なり」の想いでした。この年は第4期東京都障害者施策推進協議会第6回専門部会において、高次脳機能障害の参考人発表をする機会が与えられました。都リハに委託された社会復帰支援事業が終わった年で、都の障害者施策推進部計画課が直接高次脳機能障害者支援モデル事業の準備を開始、2006年度、地域支援ハンドブックを作り、ニーズ調査を行い、2007年度は都の組織改正で高次脳機能障害は、障害者施策推進部精神保健・医療課に移され、実態調査が行われました。これらの準備段階からTKKも家族の立場で参画していました。

また東京都障害者福祉交流セミナーも第10回～13回まで高次脳機能障害をテーマに実施され、都のパフレットも更新されました。更に4月からは予算も付けられ、相談支援を目的に、区市町村高次脳機能障害者支援促進事業が実施されています。

2007年度から開始した地域ネットワーク連絡会は各地域拠点病院に少しずつ広がり、高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会も都福祉センターで先日第3回が実施されています。多くの取組みがなされてきた元には国のモデル事業があったことも有難いことでした。しかし、国や都の専門家を交えた多くの取組みがなされていても、身近な区市町村では一部にしか対策が進んでいない現状があります。

調布ドリームにおいても、6年経った現在も市外の病院や支援センター等の紹介で来る方が多く市内では意外に少ない原因は、市内には高次脳機能障害を取り扱える病院が無いこと、また近所には知られたくないという当事者・家族の想いもあるようです。

見えない障害を見えるようにするには、私たち当事者・家族の勇気が問われているような気がします。

===== 2008. 8. 3 以上